



福井県 D X の取組み

デジタルデータを活用した地域課題の解決

C E A T E C 2 0 2 3

福井県 副知事
鷺頭 美央

01 本日本話する内容

1

交通安全対策DX

(あいおいニッセイ同和損保さまとの取組み)

2

デジタル田園都市国家構想の推進

(福井県DXの考え方・今後の挑戦)

交通安全対策DX

デジタルデータを活用した地域課題の解決

03 交通安全対策DXの全体像

実際の「運転挙動データ」を活用して交通安全対策に取組み (事後対策から、先手を打った未然防止へ転換)

県民参加型実証



- 交通量・児童数の多いエリアで取組み
- 急ハンドル、急ブレーキ、スマホながら運転等を検知
- 地域の学校や企業等が協力

データ取得分析

交通安全マップ



福井県交通安全マップ (https://fsafety-map.app)

情報公開 (危険箇所見える化)

政策展開

ゾーン30
エリア指定
(時速30キロ速度規制)



小中学校
での活用
〔データ分析学習
児童見守り〕



県内
横展開



DX実装・EBPM

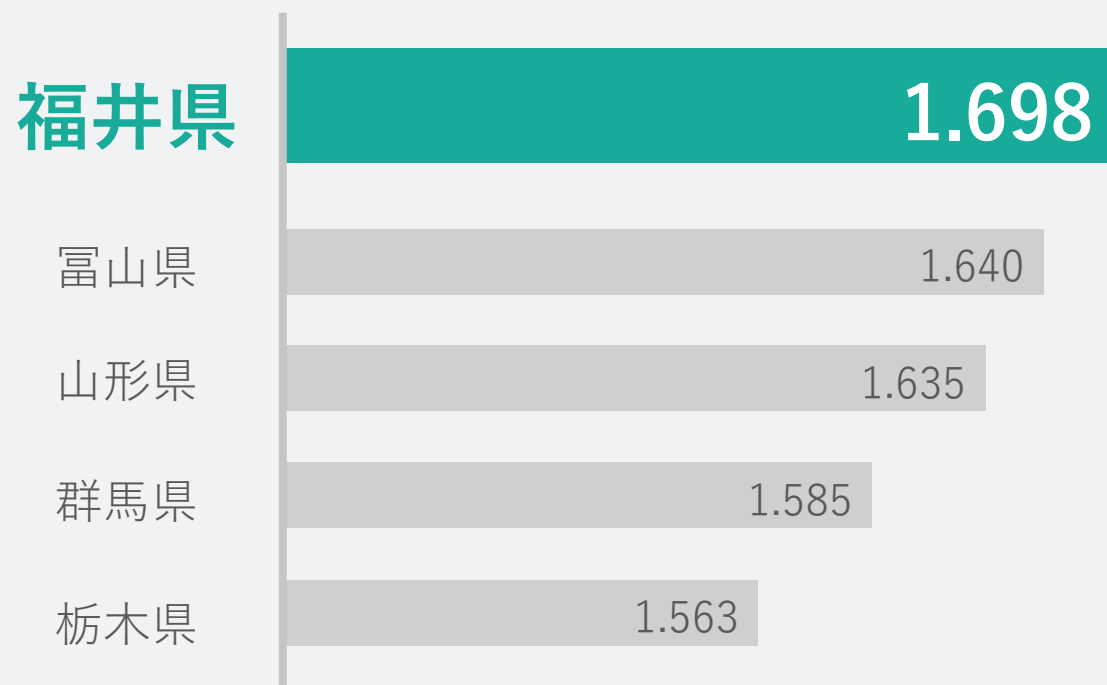
04 背景と目的

課題ドリブン（県民目線・生活密着型）でDXに取り組む

（日本有数の車社会・交通事故死者数という「喫緊の生活課題」に対応）

全国1位の車社会

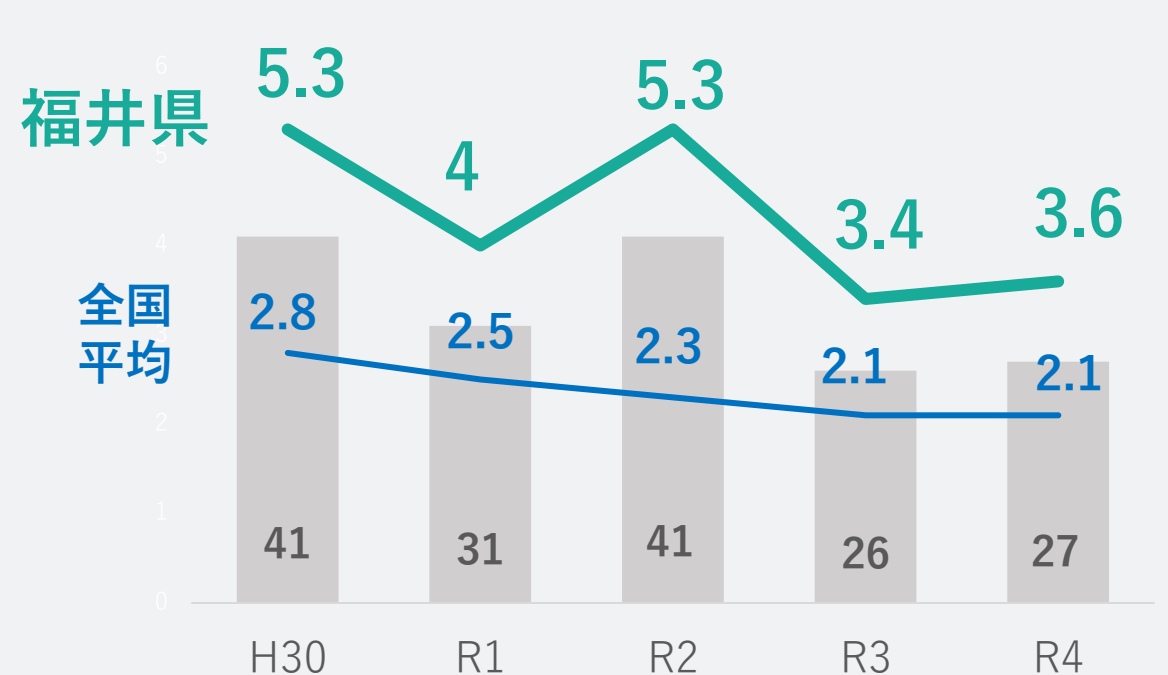
（世帯当たりのマイカー保有台数）



自家用乗用車の世帯当たり普及台数（一般財団法人自動車検査登録情報協会）

全国2位の交通事故死者数

（人口10万人当たり）※取組開始当時



都道府県別自動車事故死亡者数（警察庁）

05 手段（オープンイノベーション）

課題解決に向けて、非自前主義・借り物競争を意識

（スピード感・低コスト・住民が使い慣れたUI／UXを追求）

あいおい様 テレマティクス技術

（技術・ノウハウ・豊富な導入経験）



- 通信車載器等で、実際の運転挙動データを取得
- データをもとに、
運転特性に応じた保険料・運転アドバイスを提供
- 保険商材や全国での安全イベントでの実績多数

相互補完的な連携

（地域課題の解決と企業活動が合致）

福井県



リアルな課題を保有
新たな対策を模索

- 共通のゴール（交通事故の減少）
- 相互に意義ある・Win-Winとなる組み手
（事業目的増進、課題と技術が補完、適切なタイミング）
- 実務責任者の早期からのコミット



あいおいニッセイ
同和損保

MS&AD

適切な技術を保有
保険事業を生業

06 取組み内容① (運転挙動データ収集)

県民参加型で取組み、DX推進の機運を醸成

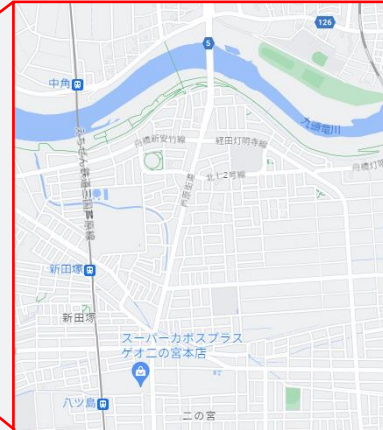
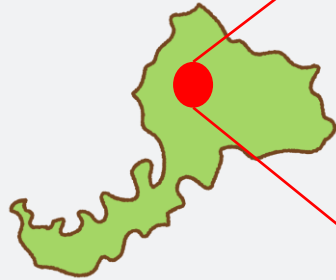
(デジタル技術の利便性を肌感覚で体験、共に一歩目を踏み出していただく)

実証実験

(デジタル時代の新たな交通安全対策：福井県・福井県警察・あいおいニッセイ同和損保)

● 期間：令和3年10月～令和4年1月（4か月間）

● 地域：福井市明新地区



● 参加者：実証地域近傍の企業・教育機関・県民

454
名

- 企業33社・幼小中学校3校
- 一般参加42名

➡ 趣旨賛同・参加者のメリット（社内教育・親配布）

● 主な実証結果：

- 走行回数：79,360回 **全員がほぼ毎日乗車**
- スマホ利用：27,159回 **乗車の度、半分は利用**
- 急ブレーキ：13,080回
- 危険挙動：**交差点のみならず狭陋な裏道でも**

データから「事故危険エリア」を選定

- ① 交通量が多い道路・交差点がある
- ② 児童数が多い小学校がある

07 取組み内容② (交通安全マップ)

運転挙動データをもとに隠れた危険エリアを可視化

(警察保有データと実証運転データを突合し、交通安全マップを作製・公開)



曜日・時間帯・挙動等別でデータ抽出可能

交通事故発生現場以外でも危険運転多発(通学路や裏道でも)

ユーザ目線でUX設計(一目でわかるStreetView表示)



08 取り組み内容③ (県警 E B P M)

実証データを活用し、県警が速度規制ゾーンを指定 (さらに、対策前後の走行データも計測、速度抑制効果を検証)

ゾーン30エリア指定 (時速30キロの速度規制・通り抜け抑制)

危険エリアをあぶり出し

データに基づき即座に対策



福井警察署からのお知らせ
8月29日(月)から明新小学校周辺道路において「ゾーン30」が運用開始になります

「ゾーン30」とは…
生活道路で歩行者等が安全に通行することができるよう、ゾーン(区域)を定めその中の道路の最高速度を時速30キロにすることで、車のスピードを抑え、また、ゾーン内を抜け道として通行させないようにする生活道路対策です。

ゾーン入口の対策
青丸のところに次の標識と標示を設置します。

ゾーンの範囲
赤線で囲まれている範囲内のすべての道路の最高速度を30キロにします。

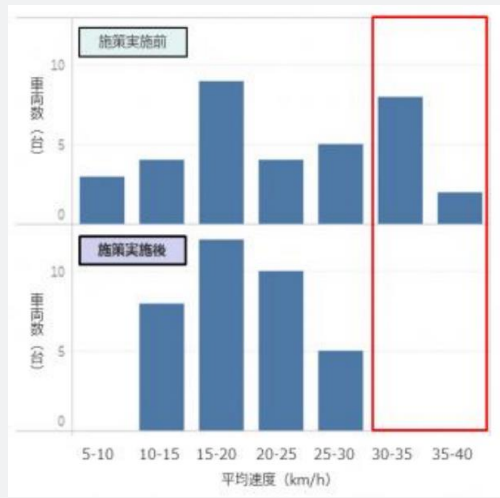
その他の対策
緑丸の交差点の信号機を歩車分離式から踏差式に変更し、人や車の流れをスムーズにします。

すいせん児童館
明新小学校

【お問い合わせ先】 福井警察署交通第二課 (☎: 52-0110)
福井県警察本部交通規制課 (☎: 22-2880)

対策効果を検証 (車両速度変化等を計測)

指定後、時速5~15キロ低減
(学校前 時速30キロ → 15キロ等)



あいおい社保険契約データを用いて検証 (グラフはイメージ図)

09 取り組み内容④ (探求学習での活用)

通学路の安全対策を自ら考える探求学習に活用

(子供たちに身近な題材で、課題設定・データサイエンス・協働学習を実践)

小中学校でのデータ分析学習

(グループでのデジタル活用実践：分析・仮説・検証・議論・発表)

- 小中学校対象 (約350名)
- gigaスクールタブレットでデータ分析、現地調査、対策検討、グループ発表
- 県 (DX・教育庁・県警) 市 (教育委員会・道路課) データサイエンティストが発表を聴講・講評
- 実践を踏まえ、データサイエンスの今を講演



通学路の危険調べ発表
明新小児童、交通データ分析

福井市明新小の5年生は、県交通安全マップで地区内を調査し、危険箇所を発表した。

区内の分析と現地調査を行い8日、同校で通学路の危険箇所を発表し注意を促した。

児童の交通安全意識を高めるため、データ分析に親しんでもらおうと県が企画。マップには車の急発進や急ブレーキ、速度超過、交通事故などの事例が盛り込まれており、作成の際に明新地区で実証実験していた。児童は10月から総合学習の時間に地区の交通データを分析し、現地で確認作業を行った。学年発表会では児童の代表が、速度超過は直線道路で多いことをマップから読み取った情報を紹介。現場の写真をスクリーンに映して解説し、危険箇所を共有した。

このうち、同校近くにあるすいせん児童館前の交差点では、信号機がないため急ブレーキする車が多いことなどを伝え、安全確認するよう訴えていた。県未来戦略アドバイザーの佐々木健太さんにもデータサイエンスの仕事に関する講演も行われた。

石塚大智君は「調査を通して、通学路の危険箇所がよみ分かった。データ分析にも関心が湧いた」と話していた。(片山亮希)

福井新聞 (令和4年12月9日)

小中学生の反応

- スマホながら運転ばかり、歩行者が気を付けないと
- 雑草で視界が悪い所で、急ブレーキが多い
- アプリの裏側がわかったデータ分析に興味があった

令和5年度現在

- 横断停止のマナーが向上 (旗持ち参加の保護者意見)
- 通学路危険マップを更新
- P T A 活動の D X 進展

10 今後の展望

データを活用した交通弱者への注意喚起を検討 (小学生などに音による注意喚起)

声かけ（アラート）地点を登録



交通量の多い交差点や見通しの悪い横断歩道など、リスクの高い場所を声かけ（アラート）地点として登録

ランドセルに端末を取付け、登下校



登録地点に近づくと、端末から「声」で注意喚起を発報
端末に内蔵の加速度センサで一旦停止有無も記録

スマホで確認、親子で振り返り



一旦停止有無を確認し、交通安全意識の低下を把握、家庭での教育につなげる

11 取組みに当たり

「利便を実感できる取組み」と「達成に向けた仕組み作り」が重要

推進役が強く意識

- ① 課題ドリブン
- ② オープンイノベーション
(早く・安く・使いやすく)
- ③ 連携機会の意識的醸成
(庁内横串・地域住民巻き込み・自分事化)
- ④ 身を以て実行 (DX・EBPM)
(データ分析 → 公開 → 政策活用 → 展開)

物事や組織を動かす

- ① 相手の立場で取組む理由を追求
 - ・ (入口) 県民や企業
 - ・ (出口) 県警察や学校長
 - 手間なし・安全確保という大目標・業務での活用提案
(企業研修・効果測定・教材利用)
- ② 公民連携の実効性確保
 - ・ 責任者の早期コミットメント
 - ・ ゴール共有 + Win-Winとなる組み手

デジ田構想の推進に向けて

交通安全対策を一例に 87のデジタル事業を推進

(令和5年度9月補正時点)

13 福井県DXのビジョン

地方発DXの最先端を目指す

 交通安全対策DX

生活のDX

利便性・魅力向上

(質的向上・広く発信)

産業のDX

生産性向上

(収益改善・待遇改善・雇用創出)

行政のDX

県民の生産性確保

(手間負担軽減・リソース確保)

人の呼び込み・定着
交流人口増

需要の確保
産業の創出・高度化

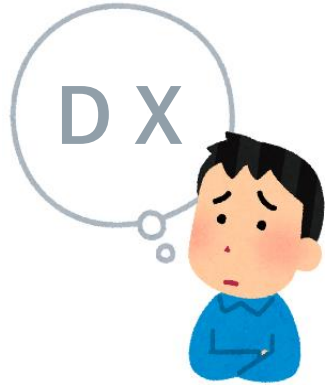
県民・企業の
挑戦機会を確保

地域社会・経済を活性化し、福井県の将来を持続可能に

即効性が高い手段
(DX)で
仕事のやり方や仕組みを見直し

14 地方の実情とDX推進の仕組み

「利便を実感できる取組み」と「達成に向けた仕組み」



DXに
お悩みの方多数



変化の必要性
感じない



デジタル人材
不足



都市部との
環境格差



利便を実感できる
デジタルの取組みを先行提供

生活に密着した利便を実感
自分事として取り組む機運を醸成
交通安全対策 大雪対策 産業支援等



自律的・継続的な
DX遂行の土台作り

実務や制度に精通する現場×デジタル
全県的な取組を支える基盤整備

- 方針策定
- 意識変革
- 推進体制整備
- 人材育成確保
- 制度設計
- システム整備

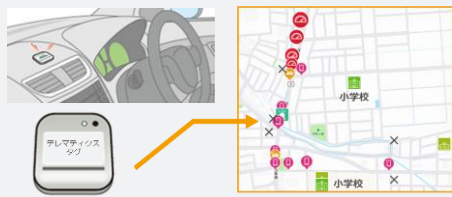
15 デジタルの取組み

生活に密着した利便を提供、DX推進の機運を醸成

(生活密着の課題解決・県民目線で再デザイン・県民参加・パートナー共創を意識)

生活密着の課題解決

交通安全対策DX
(隠れた危険エリア可視化)



大雪対策DX
(除雪状況可視化)



県民目線で再デザイン

わかりやすい情報発信
(HPアクセス解析)



政策形成への県民参加
(意見傾聴の場)



県民参加

シビックテック
(現場首長・Code for等と協働)



限界集落ドローン物流
(地域住民と協働)



外部パートナー共創

未来技術活用PJ **コロナ対策 (福井モデル)**
(民間協業での地域課題解決) (データ分析・自動化・遠隔診療)



16 今後の挑戦

デジ田構想が見据える「行政DX徹底と地域社会への波及」に取り組む

目下の課題認識

1

県民の期待値に 足る行政DX

スピードアップと品質確保
(UI/UX向上徹底・AI対応)

2

県のみならず 地域社会全体への波及

市町・産業・教育等

対応方針

変革に向けた一歩目を
より多くの方に一緒に踏み出していただく

生活レベルで
利便を一層実感

社会実装 現場支援徹底

- 防災DX
(ドローン活用・AI検知等)
- 地域交通DX
(IC化・アプリ呼出等)
- デジタル地域通貨
(データ連携含む)
- 教育DX
(学び方・働き方・現場共有)
- 企業現場のDX支援

面的に
取組を牽引

DX readyな 人材組織強化

- アナログ規制・
運用の全面見直し
(県版デジタル臨調)
- 日常的業務改善拡大
(RPA・ローコード・
簡易GIS・生成AI)
- 県市町共同取組
(人材育成・相談受付・
業務改善・基幹業務標準化)

地域社会全体の
底上げ・裨益

公民共同 推進体制検討

- データ利活用
- リスキリング
- 他自治体との
共同事業推進
- シビックテック
(Code for 連携・
地域住民との共同実証)



みずから・みんなで・ふくいをカエル

オタマジャクシからカエルに**変態** (Transformation)

未来へ大きく**蛙飛び**